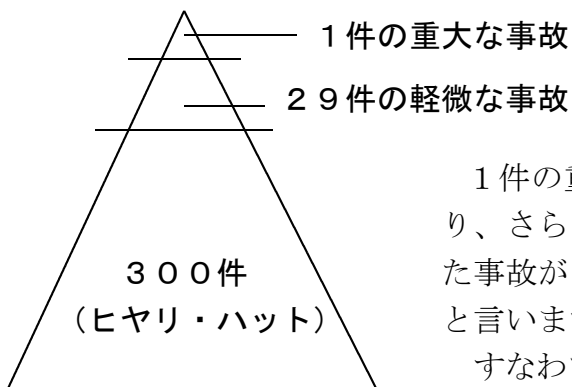


II ヒヤリ・ハット報告書（例）

「ヒヤリ・ハット報告書（例）」で学校に潜むリスクを洗い出しましょう！



1 件の重大な事故の背景には、29 件の軽微な事故があり、さらに、ケガにはならなかったが、ヒヤリ・ハットした事故が300 件あるという法則を「ハインリッヒの法則」と言います。

すなわち、重大な事故を未然に防ぐには、ヒヤリ・ハットを無くしていけば良いということになります。

あなたの気づいたことを学校の事故防止に活かしましょう！

ヒヤリ・ハット報告書	重要度	A	B	C	報告者職氏名	
いつ	平成 年 月 日 ()			午前・午後	時 分 ごろ	
どこで	(略図)					
誰が						
何を して いて						
ヒヤリ ハット の内容						
原因と 思われ る状況 (該当するものすべてに ○印を記入)	() よく見えなかった	() よく聞こえなかった	() 気がつかなかった	() 忘れていた	() 知らなかった	() 勘違いしていた
	() 考えごとをしていた	() 大丈夫だと思った	() 急いでいた	() イライラしていた	() 適当にやってしまった	() 体調が悪かった
	() その他 []					
改善すべき点						
対応策 (管理職記入)						

[重要度 A : 至急対応が必要 B : 職員会議で検討が必要 C : 職員朝会で紹介し注意喚起]

このような報告書を活用して、日ごろから教職員が自らのヒヤリ・ハットの体験を報告し、職場全体で情報を共有することによって、重大な事故の未然防止に努めてください。